

令和元年度 第1回下関医療センター地域医療支援病院運営協議会  
(JCHO地域協議会) 議事概要

○ 日 時 令和元年10月28日(月) 19時00分～20時00分

○ 場 所 JCHO下関医療センター 2階カンファレンスルーム

○ 次 第

1. 開会

2. 院長挨拶

3. 議題

(1) 地域医療支援病院としての業務遂行状況について

- 下関医療センターの概要
- 患者の動向
- 紹介・逆紹介の件数の推移等
- 地域の医療従事者、住民等に対する研修の実施状況
- 奇兵隊ネット利用状況等
- 患者相談件数及び相談支援内容
- 平成30年度TQM活動報告
- 平成30年度患者満足度調査

(2) 2019年度の新しい取り組み

「健康横丁」「わくわく健康まつり」「公式 Facebook」

(3) 外部委員からの要望

(4) 意見交換・質疑応答

4. 閉会

○ 出 席 者

木下 毅	一般社団法人下関市医師会会長
九十九 悠太	下関市保健部部長、下関市立下関保健所所長
芳川 修栄	一般社団法人下関市歯科医師会副会長
浜田 幹生	一般社団法人下関市薬剤師会副会長
村上 達哉	下関市消防局次長
櫛田 宏治	東亜大学学長
波佐間 清	下関市社会福祉協議会会長
上村 和治	上新地自治連合会、上新地町二丁目自治会会長
濱本 勉	伊崎自治会連合、伊崎三町自治会会長
山下 智省	下関医療センター院長
北 能演	下関医療センター事務部長
軍神 弘美	下関医療センター看護部長

○ 新委員の紹介及び代理出席について

新委員

九十九	悠太	下関市保健部部长、下関市立下関保健所所長
芳川	修栄	一般社団法人下関市歯科医師会副会長
上村	和治	上新地自治連合会、上新地町二丁目自治会会長
濱本	勉	伊崎自治会連合、伊崎三町自治会会長
北	能演	下関医療センター事務部長
軍神	弘美	下関医療センター看護部長

代理出席

欠席	北村	満男	下関市消防局局长
代理	村上	達哉	下関市消防局次長

○ 会長の選任について

木下 毅 下関市医師会会長を協議会の会長として選任する。  
(全会一致で承認)

○ 院長挨拶

平成29年12月までで整形外科の常勤医が不在となり、非常勤医による外来診療のみ対応をしています。周辺大学に常勤医の確保を働きかけていますが実現に至っていません。救急医療を担っていただいている関門医療センター、市立市民病院、済生会下関総合病院のご協力をいただき下関の救急体制が維持されている状況です。現有の病院機能をできるだけフル活用して貢献して参ります。

平成30年度と平成29年度を比べますと患者数は減少しておりますが、紹介患者数、救急搬送件数は増加傾向であることから、できる範囲で努力していることをご理解いただきたいと思います。

平成30年度の試みとしては、9月に在宅療養後方支援病院、10月に地域包括ケア病棟を開設し、在宅医療に貢献していこうと取り組んでいます。

昨年8月に輸液バック破損事故が発生いたしました。入院患者さんが使用する輸液バックに穴が空いており、単なるアクシデントではなく、何者かが故意に行った犯行の可能性が高いことから、当初から警察と対応を続けて参りました。現在も捜査は続いておりますが立件は難しいだろうとの判断です。当院としては、再発防止に努め、セキュリティーのチェックや薬剤の管理・運用の見直し、病院出入口の規制を行いました。また、事故が起きました8月7日を、当院の「安全管理の日」として定め、事件の風化を防ぎ、全職員が安全管理・危機管理の意識を新たにし、それぞれの部署のリスクを再点検する節目の日とし安全管理に努めております。

## 議事概要

### (1) 地域医療支援病院としての業務遂行状況について

- ・平成30年度の業務報告について、資料をもとに事務局が説明する。

#### ● 平成30年度患者満足度調査について

(委員) 病院食の評価が厳しいですが病院としての対策はありますか。

(院長) 味については、味が薄いというご意見が一番多く、ご家庭で食べている食事と違うところもあり、難しいところです。引き続き調査を行い少しでも患者さんが満足していただけるように対応したいと思います。

(委員) 私自身が利用した際は美味しかったのですが、極端に調査値が低いので気になりました。やはり、ご家庭の食事と違う、濃味より薄味に対する不満が出やすいことから、あえてこの評価が出ているのかもしれませんが。

#### ● 訪問看護について

(委員) この地域で訪問看護のニーズがどの程度あるとお思いでしょうか。これから機能強化していく予定がありますか。

(院長) 潜在的な需要はまだあると思います。スタッフの人員を増やせないことが、利用者が増えない原因となっています。

### (2) 2019年度の新しい取り組み

「健康横丁」「わくわく健康まつり」「公式 Facebook」

- ・2019年度の新しい取り組みのパンフレットをもとに事務局が説明する。

(院長) いずれも市民の皆様への情報発信です。当院には病院以外にも健康管理センターや介護老人保健施設、訪問看護ステーションがありますが、地域の皆様への周知が不足しているところがあると思います。今後もこのような試みをやっていきますのでよろしくお願いたします。

### (3) 外部委員からの要望

特になし。

(4) 意見交換・質疑応答

● 奇兵隊ネット利用状況等について

(委 員) 奇兵隊ネットを薬局が利用する場合は検査値を病院に訊ねるケースが多いと思いますが、医院が利用する場合はどのようなケースが多いのでしょうか。

(事務局) 画像診断及び検査結果の共有が多いと思います。

● 地域医療支援病院としての今後について

(委 員) 下関医療センターの地域医療支援病院としての今後の方向性をお伺いしたい。

(院 長) 在宅医療を充実させたいと思っています。訪問看護ステーションが軸になりますが、スタッフの増員、認定看護師を入れる等、機能を充実させて、より在宅患者さんの診療ができるようにしたいと考えています。また、本年から始めました健康横丁のような、市民の健康に関する情報発信と啓発を、内容も豊富にし頻度も増やしたいと思っています。

介護老人保健施設があまり市民に知られていないようで、利用していただきたいとスタッフからも意見が出ております。施設ではデイサービスを実施しており、健康教室も開催しています。

今後は、カフェ、サロン等を開設し在宅医療と併せて、地域住民方への健康指導も実施したいと考えております。

(委 員) 介護老人保健施設ではポリファーマシーの取組みをされていると聞きました。地域医療支援に繋がると思いますので今後も積極的に行っていただきたい。

● 看護師の不足について

(議 長) 厚生労働省から看護師が2025年に6万～27万人程度不足すると報道がありました。山口県は大丈夫とお聞きしましたが、下関市は大丈夫でしょうか。

(委 員) 潜在的な人数はいますが、数より人材だと思います。

(議 長) 看護師さんの人数は足りていても、今後、高齢化になれば人数だけの問題ではなくなりますが、如何でしょうか。

(看護部長) 確かに看護師の高齢化はあると思います。当院でも60歳定年後の再雇用が増えています。しかし、患者さんが話し易い等良いところがあります。

訪問看護ステーションの人材の件ですが、やりがいのある部署なのですが、病院と違って少数組織となり、勤務体制を看護師が望まない場合もあります。市内には多くの訪問看護ステーションがありますが、病院が背景にあります。急性期のコントロールや、褥瘡管理が必要な患者さんについては認定看護師がおりますので、対応は十分にでき地域に貢献できると思います。来年度は県内に3名しかいない訪問看護の認定看護師を採用する予定です。

● 情報伝達について

(委 員) 下関医療センターの取り組みの情報として、一般市民は Facebook を見ればわかるのでしょうか。

(事務部長) Facebook でも随時情報をお伝えしております。

(議 長) 自治会、地域の方はご存知でしょうか。

(委 員) 健康まつりは各総合病院が実施しています。外来診療に行く人は健康横丁等の情報が入り関心を持たれると思います。しかし、この周辺の老人は、なかなか外に出ない人が多い。定例の老人会の会合なら出席されるので、そこでこのような健康教室を出張開催して頂き、お話を聞ければと思いますが。

(院 長) 病院から積極的に地域に出ていくことも考えております。まずは自治会を中心にと考えておりまして、周辺の自治会の情報を収集しているところです。老人会の定例会は、毎月開催されているのですか。

(委 員) 伊崎自治会は月 1～2 回、最低 10 名程度集まります。第 2、第 4 土曜日の 13:30～15:00 に開催しています。

(院 長) 自治会での講演等を前向きに考えたいと思います。

- ・協議会終了後、下関市薬剤師会 副会長 浜田委員が「おくすり手帳」の活用方法についてご教授された。